名古屋記念病院は 2019 年度 新たなメンバーと共に「患者さんに寄り添う医療」をモットーに新体制がスタートしました。

●新副院長あいさつ

2019年4月1日より副院長を拝命しました佐久間博也と申します。1997年岐阜大学医学部を卒業し、岐阜大学医学部第三内科および関連病院で研修を行い、2015年4月より名古屋記念病院代謝・内分泌内科部長として着任しております。22年間に渡り、内分泌代謝内科、糖尿病内科、一般内科としての研鑽を積んでまいりました。未曽有の高齢化社会の中、名古屋記念病院が患者さんにとって最適な病院となるよう副院長業務に精進する所存です。何卒よろしくお願い申し上げます。

名古屋記念病院副院長
代謝内分泌内科
佐久間博也

患者さんへ 医療は「一期一会」の繰り返しであると考えています。誠心誠意、患者さんに向き合うことによって最適な医療を提供できるよう努力しています。

私は、白血病・リンパ腫・骨髄腫といった「血液のがん」を専門としており、生命の危機を克服する患者さんのお手伝いができることを日々感謝して取り組んでおります。生涯で2人に1人が「がん」に罹るといわれますが、ゲノム医療など最新医療の進歩も高齢化社会の問題も共に急速であり、適切な治療を選ぶには皆の知恵を結集することが大切です。がん診療担当の副院長として、院内の各診療科だけでなく、研究機関や地域の医療機関・施設との連携を深めながら、地域の皆様が、身近な名古屋記念病院で安心して治療を受けられるように、診療の充実を進めてまいります。

名古屋記念病院副院長
血液化学療法内科
粥川哲

患者さんへ 皆様と私たちが、お隣さんのような親身な気持ちで話し合い、納得のいく療養を選択できるように努めてまいります。

私の専門領域は脳神経外科と救急科であります。脳神経外科部長として、脳卒中、頭部外傷、脳腫瘍等の診療にあたらせていただいております。また救急部長として内科の先生方の助けを借りながら日中の外科系救急車の対応をしております。
2001年に配属してから脳神経外科を立ち上げ、あっという間の18年でした。外来診療と入院患者さんの治療、手術を行っておりますが、これからの私の役目は長い職歴ゆえに調整役として、サポートをしながら若手の医師が働きやすい環境を整備していくことと考えております。

名古屋記念病院診療副院長
脳神経外科
吉本純平

患者さんへ 脳卒中を来した患者さんやご家族は当然病気の専門家ではなく、病状の理解がすぐに得られないことが多々あります。何度でも解りやすい言葉で、病状の変化があるたびに説明を行うことを心がけております。

●新診療科部長紹介

外科部長
福岡伴樹

チーム医療として情報共有を密にし、確実・丁寧な手術手技を提供するべく努力します。中規模病院の利点でもあるフットワークの軽さで、患者さんや紹介元の先生方の依頼に迅速に対応してまいります。

患者さんへ 一人ひとりの患者さんの病状のみならず、生活環境なども鑑みて、丁寧な説明を行って治療方針を一緒に考えて決定できるよう心がけていきます。

循環器内科部長
椎野憲二

近年、高齢化に伴い、心疾患を患われる方が増加しています。そのために我々は心疾患の予防、早期発見・早期治療につとめ、患者さんが入退院を繰り返さない、安らかな医療を目指します。

患者さんへ 胸が痛い・動悸がする・息苦しいという症状は毎日の生活を脅かすものです。困ったら悩まず、早めに相談しに来てください。一緒に原因を考え、治療してまいります。

血液浄化療法科・老年科部長
坂本いずみ

超高齢社会を迎え、慢性腎臓病(CKD)は成人の8人に1人の新たな国民病です。自分らしく生きるための医療とは何か。一人ひとりの患者さんに真摯に寄り添ってきた診療経験を生かし全人的な医療を目指します。

患者さんへ 納得して医療が受けられるよう丁寧でわかりやすい説明を心がけています。血たんぱく尿、腎を守りたい、いずれ透析といわれた・・そんな方々の味方です。

化学療法内科部長
古田竜一

当科では胃癌、大腸癌を中心とした消化管悪性腫瘍、尿路上皮癌、前立腺癌に対する化学療法および炎症性腸疾患を専門としております。他診療科と緊密に連携し高い専門性を維持した良質な医療を提供してまいります。

患者さんへ がん治療に伴う副作用、経済的悩み、生活面での問題などあらゆる不安に対して対応させていただきます。ぜひお気軽にご相談ください。

●新入職医師紹介　Q. 患者さんに寄り添う医療とは？

外科
水野亮

A. 病気と一生懸命向き合っている患者さんに対し、適切な治療の選択肢を説明しつつ、不安や心配など傾聴し、医療従事者全体でサポートしていくことです。

外科
長谷川雄基

A. 患者さんごとに生活、考え方は違います。一人ひとりに合った最善の治療を話し合いながら一緒に考え、納得できるものを提供できたらと思います。

消化器内科
山東元樹

A. 患者さんの身体的苦痛のみならず、精神的苦痛や社会的問題の解決のためにも、各種スタッフ協力のもと傾聴し可能な限りの解決策を患者さんと共に相談していく姿勢です。

血液化学療法内科
丸茂義晃

A. 病気と戦うのは患者さん本人ですがそのサポートには、主治医、看護師、薬剤師などのスタッフの他、ご家族の支えが重要です。そのための適切な説明が重要だと思います。

血液化学療法内科
松永尚大

A. 患者さんに寄り添うとは、疾患のみでなく、患者さんのご家族・生活背景といったバックグラウンドを意識し、診療にあたることと考えております。

脳神経外科
寺西隆雄

A. 脳神経外科の病気はご本人、ご家族ともにその後の生活が一変することが多くあります。その後まで見すえて寄り添った治療ができるよう心がけています。

整形外科
金子怜奈

A. して欲しいこと、して差し上げられることはそれぞれの方により違うため、できる限りお顔を見て会話をし、できる限りご希望に沿った医療を提供することだと思います。

小児科
岩田健一

A. 親だけでなくこども自身の訴えにも耳を傾けつつ、家族と共に最良の医療を提供できるよう心がけていくことだと思っています。

腎臓内科
山田拓弥

A. 患者さんの背景まで理解し、病気だけではなく、病気が治ってからのことも考えて医療を行うことだと思います。

HOSPY **ホスピー講演会のお知らせ**

健康寿命を延ばすためにできること
「糖尿病とサルコペニア」

●講師：名古屋記念病院副院長
佐久間博也

●日時：2019 年 8 月 31 日（土）
午後 2 時～（受付開始 1 時 30 分）

●詳しくはお電話ください。052-804-1111